

水道メーター検針が2カ月に1度になります

市の上水道事業では、平成29年4月から経費節減の一環として、従来の「毎月検針・毎月請求」を「隔月（2カ月に1度）検針・毎月請求」に変更します。料金の算定方法は、検針した2カ月分の使用水量を2等分して1カ月当たりの料金を算定します。皆さまのご理解とご協力をお願いします。

なお、芦原温泉上水道財産区から給水を受けている世帯は、従来どおりの毎月検針・毎月請求で変更はありません。

問合せ 上下水道課 上水道G ☎73-8036

お住まいの地区により検針月が変わります

市の上水道事業から給水を受けている地区を、「偶数月」に検針する地区と「奇数月」に検針する地区に分けて実施します。毎月検針から隔月検針への移行調整のため、平成29年4月からの使用水量については6月からお支払いいただくこととなります。（閉栓による精算の場合を除きます。）

また、下水道使用料は水道の使用水量により算定していますので、水道料金と同様に請求を行います。

あわら市の水道には、市が行う上水道事業と「舟津温泉、二面温泉、田中温泉、牛山および二面の一部」を給水区域とする芦原温泉上水道財産区の2つの水道事業者があり、今回の隔月検針への移行は市の上水道事業から給水を受けている地区が対象となります。

地区	検針月	水道料金請求の流れ					
		3月	4月	5月	6月	7月	8月
旧芦原町の区域（※）、坪江、劔岳	偶数月 （4、6、8、10、12、2月）	検針	検針	検針	検針	検針	検針
金津、伊井、細呂木、吉崎	奇数月 （5、7、9、11、1、3月）	検針	検針	検針	検針	検針	検針
芦原温泉上水道財産区給水区域	毎月	従来どおり変更はありません。					

（※）芦原温泉上水道財産区給水区域を除きます。

スムーズな水道メーター検針にご協力を

積雪や障害物などで水道メーターの検針ができない場合は、やむを得ず使用水量を「認定（前回と同じ水量）」とし、2カ月後の検針で指針が確認できた時に料金を精算します。検針ができないと長期間にわたり実際に使っている水量が把握できないことになり、大きな誤差が生じたり、漏水の発見が遅れたりします。検針業務をスムーズかつ確実にを行うために、ご協力をお願いします。

水道メーターボックスの上に物を置かないでください

ボックスのふたを開けられないため、検針ができない場合があります。



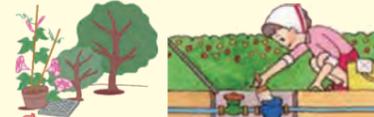
雪かきをする際にはメーター付近も除雪するようご協力をお願いします。



犬を放し飼いにしたり水道メーターの近くにつないだりしないでください。検針員がメーターに近づくことができないため、検針ができない場合があります。



水道メーターの周りやメーターまでの通り道はきれいにしておきましょう。水道メーターボックスは、時々ふたを開けてメーターを点検することで、漏水が早期発見できます。



あわら市観光白書

平成28年実績

平成28年1月から12月までの1年間にあわら市を訪れた観光客は、188万5000人（対前年比12万9000人、6.0%の減）となりました。このうち宿泊客は89万3500人（同4万3100人、4.6%の減）、日帰り客は99万1500人（同7万7800人、7.3%の減）で、北陸新幹線金沢開業後2年が経過し、宿泊客、日帰り客ともに減少に転じました。

平成27年との比較

大型観光キャンペーンなどが一段落。観光都市・あわらの顔でもあるあわら温泉の宿泊客数は、88万8000人で、前年より4.7%の減となりました。

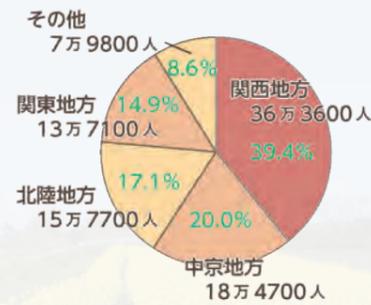
平成27年3月の北陸新幹線金沢開業の際に全国的に行われた大型観光キャンペーンなどが一段落し、北陸フリームが落ち着いたことや、「九州ふっこう割」などの国を挙げた観光キャンペーンなどに押されたことが要因として考えられます。また平成27年12月末をもって市内の宿泊施設が1カ所閉館になったことも影響しました。

セントピリアあわら奮闘

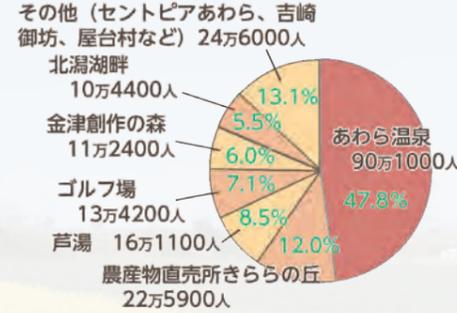
各観光地においては、入込客数がやや減少した施設が多い中、セントピリアあわらは対前年比17.9%の増加となっています。これは、平成27年に、館内工事のため約1カ月間休館していたことが要因と思われ、通年営業した平成26年の入込客数と比較しても3.6%の増となっています。館内でさまざまなイベントを開催し、それに付随したキャンペーンや割引券の発行などが奏功したものと考えます。

また、屋台村湯けむり横丁やきららの丘も微増となっています。屋台村は4月に2店舗が新規出店し話題となったことや、きららの

平成28年あわら市地域別観光客数（県外客）



平成28年あわら市観光地別入込客数



丘は10月以降全国的に野菜の価格が高騰し、農産物直売所の良さが再認識されたことなどが要因と考えられ、両者とも県内外から多くのお客様にお越しいただきました。関東方面からの観光客の割合は上昇。観光客を地域別にみると、県内客が96万2100人、県外客が92万2900人と、おおむね半々に分かれています。県外からの観光客をさらに詳しく見ると、関西方面からの観光客が36万3600人と最も多く、次いで中京方面の18万4700人と

今後の対応

知名度や魅力を向上

平成29年は、NHK大河ドラマやレゴランドのオープンなど新しい話題の多い中京エリアや鳥取県の観光復興応援キャンペーン「鳥取ふっこう割」などにより、引き続き影響を受けることが予想されます。しかしながら、平成30年の「福井しあわせ元気国体」や平成35年の「北陸新幹線の金沢・敦賀延伸開業」など、今後、福井エリアへの注目が集まるチャンスもあります。来年度も引き続きあわら市の地域ブランドを発信しながら、観光地としての知名度や魅力の向上に努めていきます。また、プレミアムフライデーが導入される中、観光地としての魅力や着地型旅行商品に磨きをかけ、国内外に発信していくことが重要であると考えています。インバウンドについては、平成28年の訪日外国人客数が前年に比べて21.8%増の240万3900人と、平成27年の197.4万人を上回り過去最高を更新しました。あわら市の訪日外国人客数も増加傾向にあるものの、その数は約1万人と少なく、まだまだ成長する余地があるといえます。平成32年には東京オリンピックという国を挙げての一大イベントも控えています。インバウンドの獲得とその受け入れ環境整備は、喫緊の課題であるといえます。

問合せ 観光工商課 ☎73-8029

北陸新幹線県内延伸に向けて

平成35年春の北陸新幹線県内延伸を控え、JR芦原温泉駅周辺のまちづくりや、にぎわい創出、人材育成が課題となっています。地元関係者と連携を取りながらまちづくりを進めていくほか、観光事業者だけに限らず本市の歴史や食、文化について紹介できる人材を増やし、地域への愛着を醸成することも、おもてなしの機運を高めていきます。また、事業主体となるあわら市観光協会の体制を強化するとともに、地域のさまざまな事業者と連携を図りながら、魅力ある高付加価値商品や着地型旅行商品を作り出し、売り込んでいきたいと考えています。

広域連携で効率的かつ効果的に事業を展開

広域的な観光戦略では、複数存在していた広域観光組織のあり方を一部見直し、効率的かつ効果的に事業を展開してまいります。また、観光客の滞在時間を長くしてもらうことを目的とした福井県の「周遊・滞在型観光推進事業」を活用して二次交通の拡充や、新たな観光拠点の整備と既存施設の機能向上を図ってまいります。